

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

鹿児島大学は、教育の質の向上を目指し、FD（ファカルティデベロップメント）委員会を設置しています。また、平成 26 年度には、全学的な取組にすべく、「鹿児島大学ファカルティデベロップメントに関する指針」を作成し、各学部・研究科の教育改善に努めています。教員の養成においてもこの指針を踏まえ、継続的な教育改善を模索しています。

教育学部では、毎年、全教員が授業公開を行い、他の教員の参観を通して、改善を目指した交流を図っています。また、年 2～3 回、附属教育実践総合センター主催で教育実践セミナーを開催し、特別支援教育や教育課程などのテーマについて、附属学校の教員にも参加を求め意見交換を図っています。

学生の授業評価アンケートも毎年、前後期それぞれで実施され、学生目線での評価を通して、授業改善につなげています。また、毎年、全国の大学で開催される学生 FD サミットへ参加したり、学生と教職員合同で FD シンポジウムを開催したりすることで、学生との共同による授業改善に取り組んでいます。

法文学部においては、教員養成を主目的としていないものの、FD 委員会の主導のもとに、授業に関する学生アンケートを実施しているほか、特定期間の全授業を原則公開とし全教員に相互参観を義務付けることによって、授業の質の向上と学生・教員間のコミュニケーションの活性化に努めています。また、全国レベルの教育フォーラム等に FD 委員の派遣を行って最新情報を収集するとともに、外部講師を招いて教員向けの講習会を開催するなど、教員養成に係る先端的な知見を教育現場に還元することを試みています。

理学部においては、各学期終了直前に、学生による授業評価アンケートを実施し、学生から見た授業の実態と授業担当教員との認識にずれがないかを知ることで授業改善へとつなげています。また、年に 1 回、理工学研究科および工学部と合同で、他大学や他の専門分野の方を講師とした FD 講演会を開催し、授業や教育体制の改善のヒントを得る助けとしています。授業公開は、昨年度までの実施数が低調であることを踏まえて、事務手続がより簡易な方式を平成 28 年度より導入しました。「授業改善は他人の授業を見ることから」が FD 活動の原点であるとの意識から、各教員が実施している様々な工夫を相互に取り入れることで、学部全体の授業技能が向上するように努めています。

工学部においては、毎年、FD 講演会や新任教員 FD 研修会の実施や、学外 FD 研修会への派遣などを行い、他大学や研究機関などの優れた FD 活動を学んだり、新しい教育方法を取り入れたりする機会としています。また、授業を公開し、教員間で参観することで、相互に改善点を模索しています。さらに、前後期および各期中頃には授業評価アンケートを実施しており、学生からの率直な意見や評価を得ています。各教員はこれらの実施結果をふまえて、授業計画改善書を策定し、自身の教育改善に努めています。なお、授業計画改善書は教員間で共有し、全教員が授業改善に取り組む資料として活用しています。このように、工学部では、学生により質の高い教育が提供できるよう、教員間で協力・連携の上、積極的な取り組みを行っています。

農学部でも教育の質の向上を目指しFD（ファカルティ・デベロップメント）委員会を設置しています。毎年、全教員が前期と後期に授業公開を行い、他の教員の参観を通して、改善を目指しています。また、学生の授業評価アンケートも前期と後期に実施し、学生目線による評価で授業改善につなげています。さらに、教員ならびに学生へFD・SD 合同フォーラムや学生・教職員ワークショップへの参加を呼びかけて授業改善につなげています。

水産学部では、学生の就職に関する満足度を最大化するために、教育マネジメントシステムの有効性を継続的に改善する運用マニュアルを策定し、ISO9001 を取得しています。このマニュアルに基づいて、FD 委員会は、授業アンケート、授業公開・授業参観、卒業時アンケート(水産教員またはそれに近い分野の教員になるための、必要で実践的な知識・技術が身に付いたか、等)を実施し、教育内容の評価を行っています。評価結果はカリキュラムや授業の改善および、教員の力量を向上させるためのFD 講習会・FD ワークショップ等に活用されています。また、学部運営会議は学生満足の向上を目指して、学生（近年の卒業生を含む。）ニーズの情報収集と分析を指示し、その結果に基づいて各種委員会によるカリキュラムの点検と責任ある実施に反映させる役割を担っています。